

『教会戒規のゴール』

'23/04/02

聖書箇所: マタイの福音書 18 章 12-35 節 (新約 p.36-)



前回、私たちは、教会が、罪を犯し続ける者を戒めるという「教会戒規」の教えについて、一緒に学びました。…これは、確かに、イエス様が弟子たちに教えてくださった教えであり、また、聖書全体も、そういったことについて、はっきり教えてくれているにも関わらず、実際には、多くの教会では、あまり積極的には教えられていないため、多くのクリスチャンたちが知らなかったり…、あるいは、ほとんど、実際には行なわれていなかったりします。

命題: 教会戒規が向かうべき、最終的なゴールとは？

そこで、先週に続いて、今日は、教会戒規が向かうべき、最終的なゴール…、あるいは、教会戒規を行なう目的について、一緒に、聖書のみことばから学んでいきたいと思います。そうすることによって、願わくは、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、教会戒規が行なわれるべき「本当の目的」について正しく知ることができて、愛の無い…、ただ、厳しいだけの教会戒規ではなく、神の愛のゆえ、神の聖さが現われるような、神様のみことばに沿った教会戒規というものがなされていって、そして、どこの教会においても、神様の栄光が現わされていくことを願います。

I・イエス様が教えられた、教会戒規のステップ！(15-20 節)

どうぞ、まずは、先週に学んだみことばと重なってしまいますが、あのイエス様が教えてくださった、“教会戒規”のステップについて、もう1度、確認していきましょう。聖書の箇所は、マタイ伝 18:15-20 になります。そこには、こう記されてありました。

- 15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。
- 16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。
- 17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしなければ、教会に告げなさい。教会の言うことさえ聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。
- 18 まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなげており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです。
- 19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつなげて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。
- 20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」

●教会戒規の 終了 とは？

今、読んだみことばは、つい先週に学んだ部分です。ですから、もし、このみことばに関するメッセージをお聞きになりたい場合は、どうか、先週のメッセージをお聞きください。…今日、私たちは、この部分から、教会戒規の“終了”について…、つまり、教会戒規が終わるための必要事項について、今から一緒に見ていきましょう。

どうぞ、まずは、15 節をご覧ください。ここで、イエス様は、教会戒規のステップについて説明するために、もし、兄弟が罪を犯して、その兄弟が最後の最後まで、罪を悔い改めなかった場合について話してくださっていますけれども…、でも、もし、その兄弟が自分の罪を正しく悔い改めた場合は、どうなるのでしょうか？

⇒その場合は、簡単です。…と言いますのは、15 節の後半に、こうあるからです、『…もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。』…ここで、『聞き入れたら』と訳されてあるギリシヤ語の言葉(ἀκούω)は、「(普通に)聞く、耳を傾ける(という意味の他)、言うことを聞く、聞き従う、従う…」とも訳されるような言葉が使われてあります。つまり、「悔い改め」こそが、教会戒規を終えるための、必要な条件なのです！

その後もご覧くださったら分かる通り、第2、第3…、そして、最後の第4のステップに進んでしまうのも、罪を犯した、その兄弟が正しい悔い改めをしなかったからで…、もしも、その兄弟が、自分の犯してしまった罪を正しく悔い改めさえすれば、教会戒規のステップは、いつでも、終えることができるのです(実際は、そんなに簡単なものではないでしょうが…)。

だから、例えば、第2のステップに進んでしまう条件として、16 節には、『もし聞き入れないなら…』ということイエス様は教えてくださったわけで、いつでも…、どのタイミングでも、正しい悔い改めさえあれば、教会戒規は終えることができるのです。

●私たちに對する、神の みこころ とは？

例えば、皆さん、ヨハネ 8 章には「姦淫の現場で捕らえられた女」の話が載っていますが(恐らく、原典には無かったが)、あそこで、イエス様は、「今後も、姦淫の罪を犯し続けても良いのですよ…」とおっしゃられました？…そうじゃなかったでしょ！

今日もまた、あまり時間が無いので、このみことばを詳しく観察できませんが、あそこで、群衆たちが皆、そこを立ち去った後のことが、ヨハネ 8:10-11 には、こう記されてあります、『10 イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」11 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」』って…。

⇒いかがでしょう？イエス様は、姦淫の現場で捕らえられた女に対して、「あなたの罪は赦されたから、今からは、もう気にせず、あなたの好きなだけ、罪を犯して生きなさい！」みたいなことをおっしゃられました？違うでしょ！『今からは“決して”罪を犯してはなりません！』(現在命令法)とおっしゃられたのです。

もう1ヵ所、有名なみことばを紹介させていただきます。…例えば、あの取税人ザアカイが回心したという時は、どうでした？あそこルカ 19 章で、イエス様は、ザアカイについて、『きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。』(ルカ 19:9)という風におっしゃって、ザアカイが間違いなく救われたことを証ししておられます。…その時、ザアカイは、こんな風に宣言する(≡誓う)わけです。『主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。』(ルカ 19:8)って…。その時、イエス様は、「やめなさい！救いは、如何なる行ないによるのではなく、ただ、神様の恵みによるのだから、あなたがそんなことをする必要はありません！」と言って、ザアカイのことを止められました？…いいえ、恐らく、ザアカイが変えられて、もはや、金の亡者から解放されて、神の前に正しい生き方をするようになったのを、イエス様は喜ばれたのではないのでしょうか？

ですから、例えば、1 テサロニケ 4:3 のみことばは、神様のみことばについて何と教えてくれています？『神のみこころは、あなたがたが 聖く なることです。あなたがたが不品行を避け、4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊(たつとく)保ち、5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。7 神が私たちを召されたのは、汚れを行わせるためではなく、聖潔を得させるためです。』(1 テサロニケ 4:3-7)

⇒このように、天の神様は、救われた私たちクリスチャンが情欲に溺れたりして…、このからだを汚れに任せてしまうようなことを、決して、喜ばれません！ 聖い神様によって救われた者が、その後、平気で罪を犯し続けるようなことを、まず、私たちの救い主であられるイエス様が厳しく禁じておられること…、そして、それと全く同じことを、使徒パウロもまた、厳しく警告をしていたでしょ！ というようなことを、私たちは先週の礼拝で学んだわけです…。

Ⅱ・教会戒規が語られた、**直前**の教え！（12-14 節）

さあ、申し訳ありませんが、今日もまた、あまり時間が無いので、2 番目のポイントに移っていきましょう。今から、皆さんと見ていきたいことは、教会戒規が語られた、その“直前”の教えであります。どうぞ、今日のみことばの内、12-14 節をご覧ください。そこには、こう記されてあります。

- 12 あなたがたはどう思いますか。もし、だれかが百匹の羊を持っていて、そのうちの一匹が迷い出たとしたら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないでしょうか。
- 13 そして、もし、いたとなれば、まことに、あなたがたに告げます。その人は迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜ぶのです。
- 14 このように、この小さい者たちのひとりが減びることは、天にいますあなたがたの父のみことばではありません。

●ここでの、1 番の **主張** とは？

先週、私は、礼拝メッセージの途中で、「聖書のみことばに限らず…、すべての文章を正しく理解するためには、その話の流れ…、つまり、「文脈」というものを正しく理解することが必要です。」というようなことを話したことを覚えてくださっています？ …そういった意味において、本当は、ここ 12 節よりも、さらにもう少し前、マタイ 18:1 から観察したかったのですが、これまた、時間の関係もあって、それはできません。

でも、簡単に、マタイ 18:1 以降のみことばをご説明させていただきますと、この時、イエス様は、弟子たちの質問に答えるかたちで、『**天の御国**』、つまり、救いについて教えてください。そこから、イエス様は、近くに居た小さな子どもを呼び寄せて、悔い改めの必要性について教えてください。その小さな子どもと関連して、躓きを与えることへの警告や、天の神様は、如何に、小さな者であっても慈しんでくださっている！ 愛してくださっている！ という話をしてくださっています。

その話の流れに、この 12-14 節のみことばがあります。…ここで、イエス様は、あの有名な「100 匹の羊」というか、「失われた 1 匹の羊」の例えを語ってくださっています。ここで、イエス様は、どんなことを 1 番に“主張”しておられます？

⇒ここで、イエス様は、例え、そこに 99 匹の羊が残っていたとしても、神様は、迷い出た、たった 1 匹の羊のことを気にかけて、捜しに出かけてくださるような御方であり、また、そのたった 1 人でさえ減びることを喜ばれないような御方だということを教えてくださいました。…そうでしょ！

どうぞ、皆さん、ルカ 15 章をお開きくださいます？ …ここでも、イエス様は、今さっき読んだみことばとほとんど同じことを教えてくださいました。これまた、ルカ 15 章すべてのみことばを読むことはしませんが、ここでは、有名な 3 つの例え（①100 匹の羊、②10 枚の銀貨、③放蕩息子とその兄）を話してくださっています。それらの例えを通して、イエス様が教えたかったことは、神様が、如何に、すべての者たちの救いを願っておられるか、ということだったはずですよ。

だから、1 つ目の例えの終わりで、イエス様は、こう結論付けておられます。ルカ 15:7、『あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。』って…。このように、神様の前に、滅んでしまっても良い罪人など、たった 1 人もおりません。また、2 つ目の例えの後で、イエス様は、こう教えてくださいました。ルカ 15:10、『あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こるのです。』⇒このように、天の神様だけじゃない！ 天の御使いたちもまた、私たち罪人が救われることを願っているがゆえに、私たち人間が自分の罪を悔い改めて救われることで、大喜びが湧き起こるのです！ …そんな話の流れの中で、イエス様は、先週に学んだ、あの教会戒規の話をしてくださったのです。

● I コリント 5 章 で、パウロが語った「**教会戒規の目的**」とは？

どうぞ、今度は、先週に少し引用した、I コリント 5 章のみことばも検証してみましょう。どうぞ、できましたら、I コリント 5:1-5 をご覧ください。『1 あなたがたの間に不品行があるということが言われています。しかもそれは、異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている者がいるとのこと。2 それなのに、あなたがたは誇り高ぶっています。そればかりか、そのような行いをしている者をあなたがたの中から取り除こうとして悲しむこともなかったのです。 3 私のほうでは、からだはそこにいなくても心はそこにおり、現にそこにいるのと同じように、そのような行いをした者を主イエスの御名によってすでにさばきました。 4 あなたがたが集まったときに、私も、霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、5 このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が減ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。』

⇒いかがです？ …先週、私たちは、この I コリント 5 章の後半だけを引用して学びました。この前半部分は、簡単に私が説明しただけですけれども、ここでパウロは当時のコリント教会に対して、自分の義理の母親と婚姻関係にある兄弟のことを取り除くべきだ！ いや、私は、もう既に、主イエス様の御名によって、その者のことを裁いた！ ということをお教えしてくれていません？ …このように、時と場合によっては、私たちクリスチャンは、愛をもって、兄弟姉妹たちの罪を裁く必要があるのです！ …と言いますのは、私たちが信じ仕えている真の神様は、ただ、優しいだけの神様ではなく…、聖さを私たちに要求されるような御方だからです。例えば、**真実の愛**について教えられてある I コリント 13:6 でも、『**神の愛とは）不正を喜ばずに真理を喜びます。**』と教えられてある通りです。

でも…、今日、私たちが注目したいところは、そこではありません。どうぞ、最後の部分をご覧ください。パウロは、一体どうして、その罪を犯した者を取り除きなさい！ 裁きなさい！ ということを勧めたのでしょうか？ パウロは、その罪を犯した者が憎かったからでしょうか？ あるいは、その者の罪によって、神の栄光が汚されてしまったことを、激しく怒っていたからでしょうか？ ⇒違いますでしょ！ それは、ここにあるように、彼を一旦、教会から除名することによって、1 度は、この世の神であるサタンの支配下に下ることになるかも知れなくても、そのことによって、彼の霊が主の日に救われるためでしょ！ …つまりは、そのことによって、その罪を犯した人物が、神の聖さや、自分には悔い改めが必要なことを学んで、本当の意味で、その人物が救われることを、パウロは願ったのではないでしょ！ …そうでしょ！

一体どうして、神様の愛を説き…、その愛を实践すべき教会で、教会戒規なんていう「**厳しい裁き**」が行なわれるのか？ …それは、本当に、イエス様を信じて救われた者は、正しく、自分の罪を悔い改めて、神様によって、そのすべてを新しく変えられた（＝生まれ変わらせられた）がゆえに（Ⅱコリント 5:17）、継続的に、罪を犯し続けることができないはず、だからです。

そういったことについて、使徒ヨハネは、このように教えてくれています。1 ヨハネ 3:2-6、2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。3 キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。4 罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。5 キリストが現れたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。6 だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見ていないし、知ってもいないのです。』

⇒いかがでしょう？ここで、ヨハネは、イエス様を信じて救われたら、後はもう、自分の好き勝手に生きていけば良いのだ！というようなことを教えてくれていました？…いいえ！そうじゃありません。…それどころか、このみことばは、「イエス様を信じて救われた者は、もう罪を犯さない！」ということを教えてくれています？そうでしょ？…でも、このみことばが言う、「罪を犯しません」というのは、「イエス様を信じて救われたら、もう2度と罪を犯さなくなる…」という意味ではありません。もし、そうだったら、この中の誰一人、救われていないことになってしまうでしょ？

実は、ここ6節に記されてある、『罪を犯す者』という表現には、現在能動分詞で表現されています。つまり、「罪を犯し続ける者」というようなイメージです。つまり、罪を悔い改めることなく、ずっと続けて、罪を犯し続けるような者…、あるいは、罪が明らかになって、そのことを兄弟姉妹たちから(≡教会全体から)指摘されてもなお、その罪を悔い改めようとしなない者は、本当に救われているのかどうか？いや！救われていない！というようなことを、このみことばは教えてくれているのではないのでしょうか？…だから、パウロは、コリント教会の中で、近親相姦の罪を犯しているような者のことを、一旦は除名して、その者が再び、正しく罪を悔い改めてくれて、もう1度、教会へ…、あるいは、神のもとへ戻ってきてくれることを期待したのです…。

Ⅲ・教会戒規が語られた、直後の出来事！(21-35節)

さあ、では最後に、教会戒規について語られた、“直後”に起こった出来事について、見ていきましょう。どうぞ、今日のみことばの最後、21-35節をご覧ください。そこには、こんなことが記されています。

- 21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」
- 22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」
- 23 このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思つた。
- 24 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。
- 25 しかし、彼は返済することができなかったため、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。
- 26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします』と言った。
- 27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。
- 28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのある者に会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ』と言った。
- 29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから』と言って頼んだ。
- 30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。

- 31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。
- 32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。』
- 33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』
- 34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。
- 35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。』

●ペテロは、赦し(の程度)について尋ねた！

どうぞ、今読んだ部分の冒頭にご注目ください。そこには、何と記されてありました？…『そのとき…』とありますでしょ？つまり、今読んだ 21-35 節の部分は、イエス様が教会戒規について教えてくださった…、その直後に、起こった出来事なのです！…そんなタイミングの時に、ペテロは、全く関係の無いような話をするのでしょうか？…いいえ！そんなことはありません。だから、このみことばには、『そのとき…』とあって、その直前に語られた教会戒規の教えと、今から見ていく、この教えとが関係あることを教えてくれているのです。もしも、そうじゃなかったら、このみことばには、別の表現を使っているはずですよ。

さて、じゃあ、ここでペテロは、イエス様に対して、どんなことを尋ねました？⇒「赦し」ですよ！あるいは、「何度まで赦すべきか？という赦しの程度」について質問をしていますでしょ？…この話は、もう皆さん、十分ご存知です。…なので、もう簡単に、説明させていただきます。

ここで言われている『地上の王』とは、真唯一の神様のことを表わしています。私たち人間は皆、真の神様に対して、罪の負債という、大きな借金を負っています。…ここで、イエス様は、私たち人間が神様に対して負っている、その負債の大きさを『一万タラント』という、莫大な金額でもって表わしておられます。…ところで、皆さんは、一万タラントが、どれほどの金額が分かってくださいませ？…まあ、ここでは、あくまでも、計算上ですが、1タラントと言いますのは、6000 日分の労働賃金だと言われています。そこで、計算しやすいように、1日1万円と計算いたしますと、1年で300日の労働として、何と、20万年という計算になります！…つまり、これは、もう、一生かかっても絶対に返済できないほどの借金なのです！

しかし、天の神様は、私たちの、その莫大な借金を赦してくださいました。免除してくださったのです！…にも関わらず、この例えに出てくるしもべは、自分に対して、100デナリという…、自分が赦された借金と比較すると、たったの0.00016% (小数点の後に0が3つと16) という、借金を赦すことをせずに、借金を返すまで牢に入れた、というわけです。…すると、それを見た、地上の王は怒って、そのしもべに対しても、同じようにされた、というわけです。

この最後のみことばが、『あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。』ということを教えてくれているように、天の神様は、私たちが互いに赦し合うべきことを願っておられます。皆さん、あの「主の祈り」に何とありました？…あの時、イエス様は、弟子たちに対して、こう祈りなさい、とおっしゃって、こんな風にみことばに記されてありますでしょ？マタイ 6:12、『私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。』って…。このように、天の神様は、私たちが赦し合うべきことを願っておられます。…と言いますのは、ついさっき見た例えが教えてくれたように、まず、天の神様が、私たちの犯した莫大な量の罪を赦してくださったからです。私たちクリスチャンは、その神様を模範として…、その神様が喜ばれるように、歩んでいきたいと考えるような者でしょ？…ここにおられるクリスチャンの皆さんも、そう願っておられるはずですよ！…そうじゃありません？

● **他のみことばも、赦す べきことを教えてくれている！**

どうか、皆さん、私たちがつい最近、エペソ書のみことばから学んだことを思い出してください。エペソ 4:32、『お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。』と聖書のみことばは教えます。また、ルカ 17 章で、イエス様は、赦しについて、こう教えてくださいました。『4 かに、あなたに対して一日に七度罪を犯しても、『悔い改めます』と言って七度あなたのところに来るなら、赦してやりなさい。』(ルカ 17:4) って…。

すると、このみことばを聞いた弟子たちは、イエス様に、こう願います、『私たちの信仰を増してください。』って…。すると、イエス様は、弟子たちに何と答えられました？…ルカ 17:6、『もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があったなら、この桑の木に、『根こそぎ海の中に植われ』と言えば、言いつけどおりになるのです。』…イエス様は、そう答えられて、その後、耕作か羊飼いをするしもべの話をされます。ここでイエス様が教えてくださいましたことは、人を赦せるかどうかというのは、信仰の多い・少ない…、あるいは、信仰が成長しているどうか、という問題じゃないということです。

もしも、あなたが、本当に、自分の罪を自覚していて…、その罪のすべてを天の神様が、あのイエス様の十字架と復活の御業によって、赦されたということを信じているのなら、私たちは、他の人の罪を赦すべきだし、また、それができるはずだ！というのです。…果たして、あなたは、また、こう言っている私は、相手の罪を赦しているでしょうか？…どうか、そういったことを今一度、よくお考えください。

＜励ましの言葉＞

さあ、もう、そろそろ、今日のメッセージを終えないといけません。…先週からお話ししていますように、私たちは、先週の礼拝と今日とで、「教会戒規」ということについて学んできました。神の愛を説き…、神の愛を实践すべき教会が一体どうして、時と場合によっては、同じ兄弟姉妹たちのことを裁いたりするのか？その理由は、まず、真の神様が罪を憎まれるような聖い御方であられるからです。

イエス様は、ペテロに対して、「“わたしの”教会を建てます」とおっしゃいました。例え、皆さんの教会の名前に、「キリスト」という文字が入っていようと、入ってまいと、すべての教会は皆、私たちの救い主であられるキリストの所有物であり…、そのイエス・キリストこそが「かしら」であります。ですから、私たちは皆、このイエス様のことを崇め、そのイエス様を愛し、イエス様のみことばである聖書に従っていくべきです。

そして、もう1つの理由は、もしも、私たちの周りで罪を犯し続けるような者がいたら、その者が、正しく罪を悔い改めて、神の前に正しく歩んでいくべきことを教えてあげるために、教会戒規のような厳しい処罰が必要だからです。神様の前に正しく歩んでいこうとする生き方…、それこそが、本当に救われた者の証しじゃないでしょうか？…ですから、教会戒規の最終段階は、罪を犯した兄弟を除名して、教会から追い出してしまうことにあるわけではありません！…そうではなくて、罪を犯した兄弟が、その罪を悔い改めて、もう1度、教会に…、もう1度、私たちとの交わりの場に…、いえ、何より、神様との交わりの中に戻ってきてくれることにあるのです。

今現在、この地球上の人口は79億人を超えるそうです。しかし、天の神様は、その中の、たった1人さえ…、たった1人の魂でさえ、救われないことを悲しまれるような御方です。だからこそ！神様の教えは、厳しく、また、いい加減ではないのです！…と言いますのは、私たちには、誰が本当に救われていて、誰が本当は救われていないか、分からないからです！だから、私たちは、「イエス様を信じます！」という信仰を告白してくれた兄弟姉妹たちが、その信仰にならって、その告白に基づいて歩んでいくことを願うのです！

どうか、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、ますます、私たちの主であられ、また、救い主であられるイエス様のみことばに沿って、歩んでいけるように…、また、天の神様が、たった1人の救いさえ、

喜んでくださるように、私たちもまた、たった1人であらうと、救われることを祈っていくべきです！

確かに、私たちは、ひょっとしたら、この先、「教会戒規」なんていう、厳しい処罰を兄弟姉妹に与えるかも知れません。しかし、それは、その人が憎いからではなく、また、当然、この教会から追い出したいからでもあります！私たちは、その人が、本当の意味で罪を悔い改めて、ますます、主の前に霊的に成長していくてくださること…、そして、何より、その方が本当に救われることを1番に願っております。…と言いますのは、1 テモテ 2:4 のみことばが、『神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。』と教えてくれているように、神が、そういったことを1番に願っておられるからです。

どうか、皆さん…。もしも、罪を犯した兄弟姉妹が、その罪を悔い改めて、また再び、教会へと戻ってきたら、どうか、快く、その者を迎え入れてあげてください。そして、何より、その兄弟姉妹が一刻も早く、罪を悔い改めて、私たちとの交わりの中に…、いや、神様との交わりの中に戻ってきてくれるよう、お祈りください。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。